

稲葉 美由紀

九州大学大学院言語文化研究院 准教授

九州大学アジア総合政策センター 協力教員

要介護高齢者のケアプロセスにおける役割 - 高齢者本人の声を通して -

高齢化社会における在宅介護問題は重要な課題であり、現在地域における在宅ケアを支えるシステム作りが進められている。介護プロセスは、要介護高齢者と介護者との「パートナーシップ」の構築が必要であり、そのためには要介護高齢者の介護プロセスにおける積極的な参加が不可欠だと言える。本研究は、要介護高齢者から老い・老後、介護に関する体験、経験、意見に「当事者の生の声」に耳を傾け、介護プロセスにおける高齢者の役割に着目した実証的研究である。これは、要介護高齢者の介護プロセスへの積極的な参加を促進し、介護者と対等のパートナーとして位置づけるため、高齢者の思いを明確にし、その認識・役割について高齢者間および介護者とのより円滑な介護プロセスの向上を図ることを目的としている。介護プロセスのエンパワーメント実践モデルの構築を目的としている。調査方法は、質的・帰納的研究方法を用い要介護高齢者と介護者への個人面接から得たデータを分析した。調査結果から、要介護高齢者は老いおよび介護を受けるという現実に関して、1) 自己ケア、2) 介護者への配慮・直接支援、3) 資源の問題、4) 支援・介護を受けることに関する思い高齢者の信念・思い、5) 医療・社会サービスの利用、6) 「生きがい」・社会参加・ネットワークの6つの認識を抱いていることが明らかになった。今後、さらに多くの要介護高齢者と介護者への調査を行い、高齢者自身の声・役割を反映させた「高齢者は介護プロセスのパートナー」と見なすエンパワーメント志向型の実践モデルの開発が重要課題と考えられる。